

認定こども園さざなみの森

いのちの循環する園庭を目指す取り組み・その1 園庭環境の持続可能性を探る

保育環境づくりのポイント

里山に隣接する森（松茸の採れる赤松林と、薪炭林としてのコナラやアバマキを中心とした雑木林）を、植生や起伏をなるべくそのまま残しながら園庭とする形で開園し46年が経過。雨が降り、水が流れ、子どもたちが駆け回り、大人も共に生活を重ねてくうち、長い年月をかけて落ち葉が堆積してできた表土は削れ、流出し、花崗岩土壌の硬い台地がむき出しとなってきました。これまでに、植栽したり、メッシュのゴムマットを敷き詰めるなどして、地形の大きな変化を食い止めるために試行錯誤してきました。

一方、園庭内には「砂場」があります。子どもたちは「砂を踏みしめ、砂を触り、砂の感触を楽しみ、砂をすくい、砂を握り、砂を何かに見立て、砂と水を混ぜたり、葉っぱや小石、木の枝や別の場所の土も混ぜ合わせたり、穴を掘り、山をつくり、トンネルを掘り、水を流し、砂場以外の場所に運び出したり」して遊んできました。1年間遊びこみ、気が付くと、砂場は大きな穴となります。そこで、年度のはじめに、2トン（ある年は4トン）、山砂を購入してきました。それで、砂場は山盛りとなるのですが、子どもたちが遊びはじめると、年度の終わりにはまた砂場は大きな穴となります。そこでまた砂を購入して、足します。砂場の砂はまるで消耗品。毎年2トンとして10年で20トン、46年だと92トン。いったいこの砂はどこに消えたのでしょうか？森の土が流れ続け、砂を入れ続けると、どうなるでしょう。そうです。砂漠化しますね。かつて森だった園庭は、砂漠へとゆくり移行していることになるのです。

産業革命以前の里山の暮らしは、「自然と共生」し、「持続可能な開発」の範囲内で営まれてきました。しかし、産業革命以後、特に日本では高度経済成長期以降、「持続不可能」な開発が進行し、生態系は崩れ、マイクロ（ナノ）プラスチックや核廃棄物に至るまで、「自然に還る」ことが難しいゴミを大量に作ってきました。人間が生命活動を送るということは、「自然を破壊する」ということと同義なのでしょうか。「自然と共生」する生活は、もはやできなくなってきたのでしょうか。大袈裟ようですが、園庭の砂場から、そんな壮大なことにまで思いを巡らせることもできます。地球サイズで見たらとても小さなスケールですが、さざなみの森の園庭で、持続不可能なことが起きています。子どもたちが遊ぶ、生活したら、「自然との共生」はできないのでしょうか。園庭の土が流出し、砂を入れて、砂漠化するしかないのでしょうか。持続可能な園庭は、どうあるべきなのでしょうか。



自然アドバイザー 菊間さんから、園周辺の森や庭を巡り、土や木々など、身近な自然にふれながら、いのちが循環しているというお話を聴きました。

～子どもたちのこの力を育みたい～

- ☑感じる・気付く力
- ☑うごく力
- ☑考える力
- ☑やりぬく力
- ☑人とかわる力

取組み方法

2025年度の取り組みでは、園庭周辺で起きている事象を大人も子どもも共有し、これから先の園庭の在りようを話し合うところからはじめました。これまでの取り組みを振り返り、今からできることを考えていくと、今からできることは、いくつもありそうです。今回、そのいくつもあるはずの手立てのうち、今の時点で、私たちにできそうなことを3つリストアップし、実践していきました。つまり、これが正解！ではなく、できること探しの旅に出た！ということです。

- 1 砂を大量に購入することを止め、園内にあるもので砂場とその周辺の遊び環境を整備する。
- 2 園庭の斜面の土が削れ、流出すること、根元が踏み固められて弱っていく樹木を保護する。このことにより、流出も抑制する効果を副次的に期待する。
- 3 園庭内で使用している石油由来の遊具（スコップなど）を、園の周辺にある、土に還る素材でつくり出す。

取組み内容

溝掃除はまかせて！溝の浚渫（しゅんせつ：溜まった砂や泥を掻き出す）作業は、この園庭で暮らす私たちの、呼吸と同じくらい当たり前のことなんだよね。



- 1-1 土の循環（溝掃除）
園庭の排水システムを子どもと大人とで情報共有し、排水溝に流れ込む土や砂、落ち葉などを園庭の上部に戻す作業を、園庭で遊び、生活する者として、定期的に、義務感ではなく、当然のこととして、呼吸するように、楽しんで取り組むリズムを創り出す。
- 1-2 有機物の循環（ウッドチップ作りとコンポスト制作）
園庭内の木の枝や落ち葉を、園庭の土壌改良の資源として活用する。ウッドチップと落ち葉コンポストづくり。コンポスト自体も、園の周辺にある木の枝や竹を使って作る。
- 2-1 樹木の保護
日頃、目にする園庭内の樹木を、あらためて観察する。その中から、根回りの保護を必要とする樹木の優先順位をつける。園の周辺にある竹や木の枝、落ち葉を使って保護する。
- 2-2 斜面の土砂流出の抑制
斜面の削れている箇所の優先順位をつけて、根回りと同じ手法で保護する。
- 3 竹の遊具、生活道具のクラフト
園周辺の竹を使って、制作する。使用する工具：ノコギリ、小刀、ドリル他

菊間さんを囲んで地域の方、他園の保育士さん、園児親子が楽しい、子どもの育つ環境の過去と、現在と、未来について語り合いの時を持ちました。

身近な自然物を活用して、園庭の遊具や落ち葉コンポスト、生活道具を親子でつくりました。その後...

おさえてくれてありがとう。とても切りやすいよ

長い箸はお料理に使って、短いのはお弁当用

落ち葉集めはまかせてね

手作りコンポストで、ミミズさんたちにバトンタッチ

ミミズさんたちが作ってくれたふかふかの土を、お花たちにプレゼント

こんなものがあつたらいいのに...」思い立ったら作ってみようまくいかなくても大丈夫。試行錯誤が楽しい！

子どもだけでも「作りたい！」（大人「大丈夫かな...」） そんな心配を尻目に、普段の保育でもノコギリや小刀を、注意深く、でも器用に使う子どもたち。竹林と子どもは無限の可能性を秘めているね。コップ、バケツ、スコップ、箸...なんとものお家までできさぞ！



<今回の取組みを通して> 講師・菊間さんから、人間がどれほど自然に負荷をかけてきたか、そしてその結果のほんの一つの出来事として、もう既に私たちの体内に、大量のナノプラスチックが取り込まれていることを学びました。子どもとの生活に必要なものは、どこかで生産された製品を購入するという形ではなく、近くに大量にある自然物で作るとして、産業革命以前までは当たり前だったことを、今ここで、できることから始めたいと思いました。自然に委ねて生活を豊かにすることは、安心して暮らせる環境をつくることなんですね。そして、「子どもには、こんなことはできない！」と思い込んできた偏見を、目の前の子どもたちが壊してくれました。子どもたちと創ってやっぱり楽しい！ 園長 高田 憲治